

- 港湾区域告示 昭和28年3月13日
(変更) 平成7年9月18日
- 港湾区域面積 271ha
- 重要港湾指定 昭和27年2月
- 所在地 日南市
- 第3種漁港指定

“県南地域の物流拠点”

沿革

油津港は風光明媚な日南海岸に位置する天然の良港で、江戸時代に飫肥藩主により堀川運河が開かれ、昭和初期には阪神、関門、朝鮮方面への木材搬出が活発となるとともに、昭和13年には製紙工場が背後で操業するに至り、昭和27年に重要港湾に指定された。

昭和30年に港湾計画を策定後、防波堤や係留施設などの整備が進められ、平成10年の東埠頭供用開始により、平成11年には、東京・大阪を結ぶ定期RORO航路、平成21年3月には神戸とを結ぶコンテナフィーダー航路が開設され、県南地域と大都市圏、アジアとの海の玄関口として重要な役割を果たしている。また、平成27年には、16万トン級クルーズ船が寄港可能となったことなどから、近年では多くのクルーズ船が寄港しており、県内のクルーズ受入拠点としての役割も果たしている。

現在の油津港は、港湾施設の狭隘化による埠頭の利用率の低下、既設埠頭の機能集約・再配置による効率・利便・安全性の向上、人が集い憩い安らぐ空間の形成、港内での放置艇対策、大規模地震に対する対応等が求められている。

これらの多様な要請に対応するため、平成19年11月に港湾計画を改訂し、「県南地域の活力と発展のみなもと“みなとまち、油津”」を目指している。

●油津港港湾計画（平成19年11月改訂）

〔基本方針〕（目標年次：平成30年代半ば）

- ① 宮崎県県南地域だけでなく南九州地域における流通拠点として、増大するコンテナ貨物やRORO貨物等、海上輸送の中核を担うユニットロード貨物に対応するため、内貨物流機能の拡充・強化を図る。
- ② 危険物を含むバルク貨物を集約するため、新たな施設整備を計画するとともに、あわせて既設埠頭の再編、利用転換を行い、埠頭利用の効率性、利便性、安全性の向上を図る。
- ③ 港内において船舶が安全に航行や停泊を行えるよう、港内の航路・泊地の確保を図るとともに、港内の静穏度の向上を図る。
- ④ 港湾における快適で潤いのある環境の創出を図るため、港を訪れる人が港や海に親むことができる開放的な親水空間及び交流空間の確保を図る。また、漁船やプレジャーボートの適正な収容を図るため、既存施設の有効利用を図りつつ、小型船だまりの拡充を図る。
- ⑤ 大規模地震発生時における物資の緊急輸送に供するとともに、背後の経済活動を維持するため、大規模地震対策の強化を図る。

〔目標取扱貨物量〕

外 貨	80万トン
内 貨	190万トン
合 計	270万トン

〔港湾計画の経緯〕

S30. 2	長期計画決定
S50. 3	一部変更 汚泥浚渫計画(追加) 用地造成及び土地利用計画(追加)
S51. 11	計画改訂
S58. 3	軽易な変更 小型船だまり計画(追加) 臨港交通施設計画(追加)
S63. 11	一部変更 公共埠頭計画(変更) 小型船だまり計画(変更)
H6. 3	計画改訂
H9. 4	軽易な変更 小型船だまり計画(追加)
H13. 11	軽易な変更 旅客船ふ頭計画(削除) 水域施設計画(削除) 小型船だまり計画(追加・変更) 港湾環境整備施設計画(変更) 土地造成及び土地利用計画(変更)
H16. 6	軽易な変更 小型船だまり計画(変更) 港湾環境整備施設計画(変更) 土地造成及び土地利用計画(変更)
H19. 11	計画改訂
H21. 11	軽易な変更 土地造成及び土地利用計画(変更)
H27. 3	一部変更 大規模地震対策施設(変更)
H28. 2	軽易な変更 土地造成及び土地利用計画(変更)
R4. 3	一部変更 公共埠頭及び水域施設計画(変更) 大規模地震対策施設計画(変更)

●沿革

油津港

- 昭和13年 日本パルプ工場
(現 王子製紙) 操業開始
- 昭和26年 9月 油津漁港第3種漁港指定
- 昭和27年 2月 重要港湾指定
- 昭和29年 7月 油津港開港
- 昭和30年 2月 港湾計画策定
- 昭和51年11月 港湾計画改訂
- 昭和53年 7月 漁業補償調印
- 昭和56年 東沖防波堤整備着手
- 昭和60年 東ふ頭整備着手
(10m岸壁、12m岸壁)
- 平成5年 堀川運河整備着手
(歴史的港湾整備事業)
- 平成6年 3月 港湾計画改訂
- 平成10年 9月 東ふ頭供用開始
(10m岸壁、12m岸壁)
- 平成11年 西沖防波堤整備着手
- 平成11年12月 RORO船(東京)就航
(川崎近海汽船、南王丸)
- 平成13年 1月 定期コンテナ航路(釜山)就航
(南星海運(ナムスン))
- 平成16年 西沖防波堤一部完成(195m)
- 平成19年 8月 堀川運河 夢見橋竣功
- 平成19年11月 港湾計画改訂
- 平成21年 3月 定期コンテナ航路(神戸)就航
(OCL)
- 平成27年 2月 大型クルーズ船係留施設完成
(16万トン級)
- 平成29年 3月 東(外)防波堤完成
- 平成29年10月 定期コンテナ航路(釜山)休止
(南星海運(ナムスン))
- 平成29年12月 大型クルーズ船係留施設完成
(22万トン級)
- 平成30年 5月 「みなとオアシス油津」登録
- 令和 2年 1月 クルーズ船のファーストポート
受入体制の整備
- 令和 5年 1月 RORO船(東京)休止
(川崎近海汽船：南王丸)
- 令和 5年 1月 RORO船(東京)就航
(マルエーフェリー：琉球エキス
プレス3、琉球エキスプレス7)



アジア最大の16万トン級大型クルーズ船初寄港(H27.8)

●油津港の歴史



【昭和25年頃】



【昭和40年頃】



【令和元年】